

太陽の子

2017年 10月 No.161

秋の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



釉薬がけの技法「ロウ抜き」で表現されるストレンクス。
一途な心が筆に込められます。(しいの木学園)

まいった、まいった

米川利夫

これは、嘆きの言葉ではなく、私の感激の声です。私が、しいの木学園で陶芸を教えるようになって、十五ヶ月が過ぎました。

今まで陶芸の技法を中心に紹介してきました。

七月は面取りでした。粘土で形を作り、弓という道具で、その面を削り落とす方法です。私が、まず手本を見せます。

私はいつも大まかに面を取り、後で修正して形を整えるやり方でしたので、この時も時間をおいて、少し硬くなつてから面取りしたところを修正して下さるように、椎名さんに頼みました。

次に、みんながやってみる番です。一人ずつ弓を持ち、面取りしていきます。

その時、驚くことが起こりました。その面取りがきれいなのです。決して正確ではないのですが、弓を力強く動かし、その面取りにリズムを感じました。「いいね」と私が言うのと、ニコニコしていました。

椎名さんは、私が「後で修正して下さい」と言った言葉を覚えていたので「全員の作品を修正しましょうか」と言われたので「いや、私のだけ直して下さい」と言いました。その時の彼女のほほえみは、私と同じように彼らの作品の美しさを分かっていたのでしょうか。

私は美しさを追い求めながら仕事をしていますが、彼らの作るものは、美しさが後から追い掛けてくるようです。

彼らに、それを誰が教えたのでしょうか。まいました。

きつと伝わる

日立市ひまわり学園
根本 忠行

自分自身にとつて「悔いのない一日とは何か？」と考えてみる。日々仕事をする中で「後悔」というものはどんなことだろうか……。支援する側はいくつかの支援目標を持って利用者さんと関わっている訳だが、関わる中で「こうした方が良かった？」というものは沢山あるが、関わる時間を大切にしていれば後悔に繋がってくることはほとんど無いように感じる。

ひまわり学園で働くようになり、担当として何人かの利用者さんと関わらせて頂いている。関わりに対して、とても難しく感じることは多々あるが、色々な視点から物事を考え、支援するのが楽しく思える。その楽しく思っている中でも壁にぶつかるともある。すべてが自分の思ったようにいかない。どのように利用者さんに関わり、伝えていくかがとても大切になってくる。短期間でうまく関われるとは思っていない。時間をかけてでも、皆さんのことを知っていききたい。こんな自分でも「何か利

用者さんの為に出来ることはきつとある」と信じて関わっています。

日々の関わりの中で喜び、悲しみを共有していくことで、利用者さんとの距離が縮まっていくのだと思います。小さな喜びを積み重ねて大きな喜びへと繋がってほしい。その為に自分に出来ること、自分しか出来ないことを見つけていきたいとそう思っています。どこかで必ず利用者さんは見てくれている。この思いを信じて、自分自身、一日一日を大切に利用利用者さんと真正面からぶつかっていききたいと思えます。

その先にあるものとは……。 「みんなであつて笑顔が絶えない日々」であると自分はそう信じています。

自分らしい暮らしを

日立太陽の家居宅介護事業所
河合 直子

居宅介護事業所では、利用者の皆さんの暮らしの中で、本人や家族の希望に添って、さまざまななかたちで関わっております。

ある利用者さんは、ある日買物に行きたいと希望されました。いつも家族が自分にいると買ってきてくれるので、

自分も家族のために買いたいと、家族皆で食べられるものを楽しそうに選んで買っていました。お互いに思いやる、温かいすてきな家族だなくと、ほっこりとした気持ちになりました。また、ある利用者さんは自宅での入浴介助を希望。でもあまり気がすまないのかな？と感じながらも入浴してみると、そんなことは忘れたように、気持ち良さそうに温まり、すっきりとして入浴後のジュースをゴクゴクと飲んでいました。

居宅介護事業所へ来て過す利用者さん。お店で迷って選んだ昼食、または自宅から持参したお弁当などをお友だちと一緒にゆつくりといただきます。そして入浴をしたりして一日を過ごして帰られます。

通院のお手伝い、自宅での見守り介助など、他にもいろいろなかたちでお手伝いできれば嬉しく思います。

誰もが自分らしく暮らしていけたらと願っております。少しでも寄り添ってお手伝いできれば嬉しく思います。



研修報告

岡山作業療法フォーラム

作業療法士 浅井 梨枝子

七月に岡山で行われた「重症心身障害がある人の生活を支える 作業療法フォーラム」に参加してきました。今年で七回目となるフォーラムで、重心の世界で活躍する作業療法士が立ち上げた会です。関西から東北まで様々な施設や病院などの作業療法士が集まりました。

症例検討では、どんな方に関わってこんなことに困った、こんな方法は？ こんな道具は？ その方にとつてどうしたらもつと良い生活を送ることが出来るか、どうしたらもつと笑顔になれるか、能力を引き出すにはどうしたら良いかを考え、行ってきた治療について聞くことが出来ました。

たくさんの発表の中でも「とんちゃんのおさんぽ」という発表が印象に残りました。進行性の疾患を持っていて全身が柔らかく、筋肉の活動がほとんど見られない男の子のお話でした。気管切開し、状態は安定してきているけれど、何が起きて不思議ではないと言われているそうです。そんな

とんちゃんのスクーリング(学校で短期間授業を受けること)の話でした。前回のスクーリングは三年前。さて、何をするかと考えたとき、関係者はみんなスパイダーをしたという思いになったそうです。スパイダーというのは、装置とベルトが紐で繋がっていて、腕や足、胴体にベルトを付けることで身体を支え、一人で立つことの出来る装置です。普段経験することの出来ない立ち姿のとんちゃんを見て、お母さんは涙を流していたそうです。こういった、成長の過程で当たり前に経験することを経験し、楽しくてワクワクすることがあること、人と社会と繋がっていることで、機能を維持・向上させ、命を輝かせ、豊かに生きていくことを忘れてはならない。これからも、ドキドキワクワクの経験をたくさんしていきたいと思うという発表でした。

私たちにとつて当たり前のこと。それを大切にしていくことの大事さを改めて実感させられました。

日立守る会だより

日立重症心身障害児(者)を守る会

息子のその後の自立生活

日立重症心身障害児(者)を守る会 会長

藤枝 利彰

利教が自立生活を始めて、早いもので、今年の十月で八年目に入ります。現在も介助者に二十四時間介護をして頂き、毎日楽しく過ごしております。本人の毎日は、食事のメニューも洗濯機をまわす時間も掃除する時間まで、すべて自分で決めないと生活がなりたたないのです、介助者は利教の手の代わりになり、家事から身の周りの事(トイレの介助など)まで手伝ってくれます。介助者が二十四時間いてくれるおかげで、自分らしく生活ができています。つまり本人と介助者は、二人三脚のように生活を送っています。本人はいつも介助者には、『ありがとう』という想いを胸いっぱい生活をおくっているとのことです。

今回『絵本を出版』したいとの夢を大切にしたいの思から、『朗読と絵画で綴る

物語の世界』と題した公演を行っている橋本さんの活動をフェイスブックで見ると、利教から『絵本を作りたい夢がある』と今回の絵本の『3粒のぶどう家族』の物語の原稿を送ったとのこと。利教の夢を叶える手伝いが出来ればと思い、絵本作家の野歌つぐみさんに絵を、順いづみさんに音楽をお願いし、朗読仲間に声をかけてくださり、絵本を作るプロジェクトチームを立ち上げて下さいました。制作資金がないため、クラウドファンディング「インターネット」を通じて不特定多数の人から資金を集める仕組みで、制作資金は大勢の方のあたたかいご支援によりつくられました。

絵本『3粒のぶどう家族』は八月末日に完成し、先日、日立市内の各学校と日立市教育委員会へ寄贈しました。

『3粒のぶどう家族』のあらすじを一部紹介します。

人々が立ち入らない山奥に、ぶどうがたくさんなっていました。その中に一房だけ、3粒のぶどうがありました。この一房は3粒家族です。

粒は大きく美味しそうな紫色ですが、中身はとにかく苦い、どんな時も自己中心なお父さんぶどう。子供のことはそつちのけ、ステキな水色と赤のしましま皮を着ているズル賢いお母さんぶどう。そして、皮は真っ黒で形もデコボコ、でもとても甘い香りのする息子ぶどうの「アオシ」がなっていました。アオシは、いつもアリ達と遊んでいます……。

絵本の書き出し部分を紹介しました。

今回、利教は大勢の方々に支えられ、念願の絵本の出版をすることが出来ました。これは偏に橋本様、野歌様、順様、その他プロジェクトチームの皆様のお力添えのお陰と感謝いたしております。



息子よもっと輝け

與澤 千代子

息子は今C.I.L「自立生活センターいろは」という所の会員となり、将来自立生活をする為の勉強をしています。約四年前よりクロバーのヘルパーさんが朝九時から夕方七時迄来てくれています。何をすることもヘルパーさんと一緒にです。全部自分の意志で物事を考え、ヘルパーさんに何をしてもらいたいか伝えなければなりません。ヘルパーさんは、本人が指示を出さなければ動きません。一日一日が自立の為の勉強です。

毎日沢山の会話をすることで、まず言葉の発音がはつきりしてきて、会話をすることの大切さがしみじみと分かりました。私は全然口をはさむ事は出来ません。息子にも変化が現れ、まず明るく、いつも笑顔で接する事やあいさつもきちんと出来る様になりました。若いヘルパーさん達と飲んだり食べたり話しをしたり、好きな将棋大会にも行けるし今が一番楽しい時期だと思えます。「いろは」の沢山の楽しいイベントもあるし、時には私も参加する事もあります。将来いつの日か家を出て自

立生活を始める時がくると思うけど、私の元気なうちは一緒にいたいと思います。息子が側に居るだけで私も元気をもらっています。これからも一日一日をあまり老いを考えず、前向きに息子と共に輝いて生きてゆきたいと思っています。

笑う門には福来たる

大久保 澄江

去年に続き夫が今年も入院し、主治医から呼吸器による延命などの深刻な話をされました。でも私達家族は、落ち込んで暮らす事はありませんでした。本人の生命力を信じようと、昨年から子供達としっかり話し合っていたからです。

退院して約二ヶ月が過ぎました。夜、呼吸器(ニップ)を付けているせいか、以前よりもなんとなく落ち着いているような気がします。二酸化炭素を吐ききれずナルコーシスになり、幻覚、幻聴、暴言と人格が変わってしまい、そして最後は意識障害になってしまったのが嘘のような穏やかな顔になりました。これからは毎日が要観察となりましたが、まずはひと安心です。義母の認知症も進み、夫、義父母の三人が要介護2にな

(次頁へ)



7/22(土)助川小学校で行われた夏まつりに参加してきました。今年は「さかなくん」の衣装をして練り歩き、店頭販売や移動販売もしました。(ひまわり学園)



風船ベッドでリラクゼーションをしました。割れないかドキドキ！不思議な寝心地を楽しみました。(太陽の家)



ひかりの郷総合防災訓練が行われ、利用者さんと一緒に消防隊員の指示のもと煙道体験をしました。(日立太陽の家居宅介護事業所)



永年勤続 40年、20年、10年の面々です。いつも変わらぬ笑顔を療養に溢れさせてくれます。合言葉は“笑顔と感謝”です。

○退所
日立市太陽の家

お知らせ

◎平成二十九年年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 三百二十九名
男性 百九十三名
女性 百三十六名

最後に、今回も皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけしました事をここにお詫び申し上げます。

編集後記

◇米川利夫先生紹介
陶芸家の須藤武雄氏に師事し、一九八四年独立。現在は常陸大宮市で活動中。
木を種類ごとに燃やした灰を使用した釉薬を作り、近くの山や畑から採れた粘土で作陶しています。
縁あって昨年から日立市しの木学園にて陶芸を教えていただいております。それぞれの思いが詰まった素敵な作品が生まれています。(K記)

（前頁より）
り、さながら我が家はデイサービス状態です。でも我が家には笑いが絶えません。私も子供達もポジティブなせいか、なんとかなる精神で毎日生活しています。あとで後悔しないように今やれる事だけやっていこうと決めていました。でも先日十九才の息子に「ママは前世で悪い事いっぱいしたのかな」とポツリとつぶやいたあとで「ちがうナ。オツカアの前世は看護師だナ。でなきや四人も介護なんか出来ないヨ。すごいヨ。でもオツカア、俺もいるからもう大丈夫だヨ」と笑って言われました。いつもの間に、たくましくなった息子の言葉に救われた気分です。

○次の方から寄付を頂きました
（敬称略） 六月～八月
黒澤弘明 鈴木貫一
鎌田文雄 とく名
○次の方から物品の寄贈がありました
（敬称略） 六月～八月
椎名将光 大森健二 越田彩
有馬郷子 篠原小百合
小又慎平 大森英世

鈴木一江さん
日立市ひまわり学園
今橋千尋さん
それぞれの場所で新たな道を歩み出すと思います。いつでもでもお元気で。

ご寄付ありがとうございました